著Flora Rossicaニ圖解シアルモノハ全然みやまはひねずニ一致スルガ如クBeissner氏モ其著Nadelholzkundeニハ其學名ヲ用ヰタリ武田久吉氏ハ英國Kewニ滯在中ダウリア原産ノ標本ヲ見シニ日本ノモノトハ異ナルコトヲ發見セリ故ニHenry氏ガ嘗テみやまはひねずニ命名セシJuniperus chinensis, Linné, var. Sargentii, Henry.ヲ種ニ改メテJuniperus Sargentii, Takeda.トセントスト余ニ明言セラレタリ余ハ未ダダウリアノ標本ヲ見ズ從テダウリアニハKewニアルモノト同一型ノ植物ノミガ生ジ居ルヤ又ハ日本産ノ如キモノガ別ニアルモノナルヤヲ確定シ難シ此問題ハ將來ノ研究ヲ俟テ決スベキモノトス　(4)**くろまつ**ハ全羅南道ニモ生ジ海南郡、務安郡ノ如キハ日本ノ松原ヲ見ル如キ處サヘアリ又南岸ノ諸島ニモアリ　(5)朝鮮ニ**そなれ**Juniperus procumbens, Siebold.ノアル事ハStephano Endlicher氏ノ著Synopsis Coniferarum 第二十一頁ニ記シアレドモ其後何處ニアルヤヲ確メ得ザリシモ大正九年總督府技師石戸谷勉（イシドヤツトム）氏ハ技手擲台鉉氏ト共ニ全羅南道ノ西方海上ニアル大黒山島ニテ之ヲ發見セリ大正十年余ハ矢部吉禎博士ノ注意ニ依リテ對島ノ屬島タル黒島ニ至リ見シニ同島ニハ夥シク生ズルコトヲ知レリ普通栽培スルハ鱗片葉ナキ品種ナレドモ黒島ニハ兩樣ノ葉ヲ生ズルモノヲ普通トシ從テ雌雄異株ナルコトモ確メ得タリ嚴原（イツハラ）ニテハ此兩樣ノ葉ノアルモノヲそなれノ如ク庭園ニ植ヱ居ルヲ見タリ田代善太郎氏ハ壹岐ニモ自生アリト語ラレシモ余ハ未ダ一見スル機會ヲ得ズ　(6)**このてがしは**ハ慶尚北道達城郡解顏面、忠清北道丹陽郡丹陽面、忠清北道鎭川郡草坪面ノ三箇所ニ自生狀ヲナス皆始メ墓地ニ植ヱシモノヨリ實ガコボレテ自生狀トナリシモノナリ岩ノ間隙ニ生ズルモノハ生育遲ク三十餘年ヲ經タル幹ノ直徑僅ニ一寸許ナリ墓地ニ植ウルハ其材ヲ薰ズレバ芳香ヲ發ツ爲メニシテ我邦ニテしきみヲ植ウルト同意味ナリ

(完)

○染井吉野トハ誰レガ命ゼシ櫻ノ名カ

牧野富太郎

頃日突然舊知ナル横濱市南太田町一九七〇番地藤野寄命君ヨリ下ノ樣ナ書面ヲ寄セラレタ『久しく拜眉を得ざるも愈御壯健奉敬賀候過日新聞紙上廣告に科學世界四月號に貴君櫻花の高説あるを知り早速買求め御高説を拜讀愚蒙を啓發すること不尠深く感謝仕候染井吉野名稱に就ては貴君の事故定て園藝の友も御一覽とは存候得共念の爲該雜誌に記載の鄙説を抄錄して入高覽候三好君も櫻なる雜誌に染井芳野の名は染井邊にて培養するの名ならんと汎稱の樣に記載せられし樣存じ申候櫻に就ての世界一人たる貴君と三好君とが箇樣に申されては予輩の如き名附け親は見知るものもなきに至らんかと哀れに感じ申候御多忙御面倒とは存候得共御一讀を願候　拜具　大正十二年四月五日』ソシテ大正九年四月五日發行ノ「園藝ノ友」第十六年第四號ヨリ抄錄セラレタ『染井吉野櫻に就て』ナル記事ヲ添付セラレタ今之レヲ一讀スルニ其染井吉野ナル名稱ガ初メ同君ニヨリテ此櫻ニ命ゼラレシ委細ノ顛末ガ能ク分ッタ是レハ斯界ニ於テ頗ル有用ナ文字ト思フカラ今左ニ之レヲ掲出シ且ツ同君ノ櫻ニ於ケル功績ヲ世ニ表彰シヤウト思フ然シ此染井吉野ナル名稱ヲ同君ガ始メテ世ニ發表セラレタノハ同君ノ文章中ニアル如ク日本園藝會雜誌第九十二號デ其レハ明治三十三年一月ノコトデアル、同君ハ明治年間ニ久シク博物局(今ノ東京帝室博物館)天産部ニ奉職セラレ種々植物ニ就テ研究セラレシ熱心ノ士デ君ノ考證上ノ筆蹟ハ同館ノ書籍ノ上ニ今モ尚遺ッテ居ル君ハ今年七十六歳ノ高齡ニ達スルモ尚ホ矍鑠トシテ優々兒孫ヲ相手ニ樂シキ月日ヲ送ッテ居ラル、

染井吉野櫻に就て

横濱　藤野寄命

染井吉野なる名稱は予が東京上野公園櫻花調査の時附與せし名稱にて、其前に如何なる書籍にも如何なる口碑にもあることなし。否ある筈なきなり。此櫻花調査は明治十八九兩年に渉り成就せしものにて、其當時二三の人に談話せしこともあり。又明治二十四年と覺ゆ此櫻花調査の一部を抄錄したるものと銀木犀結實の略説とを植物學會に寄送せしに、銀木犀結實の略説は植物學雜誌に登錄の榮を得たれども、櫻花の調査の方は其儘になり居り、哀れや最早世に出る機會もなく空しく蠹魚の餌食となるべくと諦らめ居りしに、牧野富太郎君と園藝雜誌記者との好意厚情に因り明治三十三年一月に至り日本園藝會雜誌第九十二號に掲載の榮を得予は前記兩君に對し衷心より感謝する深甚なり。此櫻花調査には花葉略圖と櫻に關する書籍名と添付しありしも、該雜誌紙數都合にて掲載せられざりしは是非もなきことなり。此染井吉野の名稱と形狀とは該雜誌九十二號の九ペーヂに記載あり。其時彼岸櫻又は山櫻孰れかの變種なるや更に一別種なるや審にせずと記載し置きしが、其後松村

博士に據て學名も定り別種なること分明になりしが、其原始は予が彼岸櫻類と山櫻類との外に、此不明なる染井吉野の一品が存在するを認め、眞吉野（白花山櫻）梅咲吉野の品種と區別するが爲め附與せし名なれども、此櫻花調査染井吉野發見の動機は故田中芳男先生の指導に基くを以て、眞に之を見初めしは故田中芳男先生の慧眼卓見に屬すと謂ふべし。予は明日をも知れぬ七十三の老齢なるを以て、生前此事を世人に告ぐ。（大正九年三月）

「園藝ノ友」誌上デ藤野翁ノ公ニセラレシモノハ上ノ通リデアルガ尚ホ同氏ハ今回ノ書面ニヨリ之レニ附記シテ下ノ如ク言ハレタ是レニ由テ觀レバ其當時ノ歴史ガ能ク分ルユヱ次ニ其文ヲ掲グル、即チ『此染井吉野の名を附せしは其當時精養軒前通り邊に栽植の該樹は近年移植のものなれば孰れより來りしか園丁掛小島某氏に尋ねしに多くは染井邊より來ると申せしこと故假に名づけしなり其頃も田中先生などは或は大島産ならんかとも疑はれし事もありし又松村博士の此品の發表は何年頃か記憶なけれども植物學會長なれば予が寄送の草稿に此名のあるは疾くに御承知の筈と考へ候　大正十二年四月　藤野寄命記』ガ其レデアル

○染井吉野ヲ大島櫻ト間違ヘシ經緯（イキサツ）

牧野富太郎

今日デハ大島櫻（おほしまざくら）ト染井吉野（そめゐよしの）トハ全ク別ノ品種デ兩者ノ間ニ何ノ關係モナイコトガ能ク分リ即チ大島櫻ハ山櫻（やまざくら）ノ一變種、染井吉野ハ一種特別ノ櫻デアルコトガ明カニナッテ居ルガ一時ハ我等ノ社會デモ之レガ同ジ者デアルカノ樣ニ認メラレテ居ッタコトガアッテ私ナドハ公々然トソウ吹聽シタモノデアル其レ故其時分ノ講演筆記ナドヲ見ルト往々ソウ書イテアルコトニ出逢フデアラウト思フ今日デモ其當時ノ舊説ニ化（バカ）サレテ染井吉野ハ大島櫻ト同ジモノデ伊豆ノ大島ニ在ルモノダト言ッテ居ル人ガアッタノヲ見受ケタコトガアル、此誤謬ヲナシタ事ニ就テハ東京麻布ノ學農社主ノ故、津田仙君ニ其責ヲ歸セネバナラヌ事實ガアル、ソレハコウデアル明治三十